

ざっくばらんとーく 2010

「仕事と家庭の両立支援～誰もが力を発揮できる働き方を考える～」開催報告

開催日時：2010年 3月 6日（土）13：30～16：30

会場：中野区男女共同参画センター

参加人数：69名（地域生協53名、医療生協1名、全労済東京都本部1名、中野区内事業者5名、連絡センター1名、中野区3名、東京都生協連5名）

東京都生協連男女平等参画推進連絡会では、働きやすい職場づくりに向けて、東京の生協の職場における男女平等参画をすすめてきました。昨年の「ざっくばらんとーく」では、各会員生協の職場の男女平等参画状況実態調査の結果や、調査からみえてきた課題と課題改善指針について報告しました。

今回は、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）の重要性を学び、ワーク・ライフ・バランスをより良くするため、参加者が交流しながら、これからどのようにしていけばいいのか考えました。

【基調講演】

「仕事と生活の両立支援～誰もが力を発揮できる働き方を考える～」

講師：松田茂樹氏<第一生命経済研究所主任研究員 博士（社会学）>

I. 両立支援の必要性

日本人の働き方は長時間労働でストレスも高く、希望する働き方と実際の働き方とが一致していないのが現状である。また、若い世代の意識は、仕事も家庭も優先したいと望む傾向にあり、近い将来には、少子化による人材確保が困難になっていくことも明らかである。家族、子育てや介護、健康はもちろんのこと、若い世代が入ってこない、しかし仕事は減らないことから、人材・労働力確保が大きな問題で、仕事と生活の両立支援が必要となってくる。

II. 企業における両立支援

企業における両立支援には、休業・労働時間・生活支援の3つの柱があり、制度の上では主要先進諸国の中では中の上にあり、フランスなどと同程度で、正社員にとっては比較的よいが、近年増加している非正社員には取りにくい状況にあり、所得の保証は低い。制度より、日常的な長時間労働の是正や短時間勤務の充実が課題となる。

また、雇用も賃金も不安定な非正規雇用者のワーク・ライフ・バランスは1企業ではなく、国全体のシステムの問題といえる。

III. 先進企業の取組み

○ A電工/A電工労働組合（ワーク・ライフ・バランス大賞受賞）

各職場で無駄な仕事をなくしていく、日々の業務改善を労使ともに取り組み、短時間勤務・休暇・休業制度の充実を計り、労働時間の削減や生産性の向上につながった。

○株式会社B塗装店（ワーク・ライフ・バランス大賞受賞）

従業員20名以下の小規模企業の利点を活かし、各社員の家庭に配慮した柔軟な制度運用を実現し、若手社員の確保・定着と技能の向上や伝承が推進できた。



松田 茂樹 氏



○製造業H社

組合主催のフォーラムや事業所ごとのワークショップなどの啓発もあり、小学校1年までの通算3年間、回数制限無しとした育児休業の男性利用が増加し、5日間連続・分割で取得できる配偶者出産休暇を設け、2年連続100人以上が利用した。

IV. 両立支援の普及のために

両立支援の意義・目的を再確認し、従業員の声を聞きながら、経営戦略の上でも最も必要なことに集中すること。労働時間の削減や生産性向上となる無駄・業務改善の労使一体となった不断の取り組みが欠かせない。国や自治体では、独自の両立支援の取り組みや、企業での取り組みの広報を行い、雇用の安定や正規との均衡処遇など非正規雇用者への両立支援の構築が望まれる。

【ワークショップ】

8つのグループに分かれて、基調講演で感じたことや自身の働き方の現状分析と自己評価を交流しながら、今後どのような考え方、行動をしていけば良いのか考えました。



現状分析・評価

- ・ 報告と協議事項が全て一緒に会議に出され、効率的ではない。
- ・ センターでは、配達・営業とも担い、役割が明確に分業化されず、作業手順が個々に違う。
- ・ 長時間労働に加え、長時間通勤も重なっている場合も少なくない。
- ・ 制度はあるが、経済的な不安や職場の理解不足などで、活用できていない。
- ・ 残業代が生活費になっている。
- ・ 自分で選べない計画有休。夜でなくてはできない拡大・共済の勧誘。

これから



- ・ ストレスが増えないように仕事の効率化をすすめる。効率を高める事例を調べてみる。
- ・ 仕事でも家庭でも、分担の見直しをする。
- ・ 個々の状況も理解した上での上手なマネジメント。
- ・ 休職中の職員も含めた職場でのコミュニケーション。
- ・ 個々の気持ちや長所を理解することから始める。

【最後に】

中野区男女共同参画センターとの共催とし、開催にあたっては、講師との交渉や会場、保育スタッフの確保等をしていただき、中野区内の企業からの参加も5名あり、異業種の交流にもなりました。

基調講演では、主要先進国との比較も交え、日本人の働き方の現状や課題を学び、ワーク・ライフ・バランスの必要性、生産性の向上とともにすすめていくことが重要であることが共有できました。

これまではパネルディスカッションで、聞くことが多かったが、今回は参加型のワークショップとし、それぞれの生協や個々の現状や課題の交流ができました。早速職場で活かしたいなどの感想もあり、より良いワーク・ライフ・バランスの実現に向けたきっかけとなりました。

